



APU国内学生後援会 地域懇談会(2025/05/18)

地域と観光を学ぶこと



サステイナビリティ観光学部 3回生
高橋脩



目次

- 01 - 自己紹介
- 02 - APU / STでの学び
- 03 - 課外活動
- 04 - 今後について
- 05 - 最後に



01

+

自己紹介

+

プロフィール / なぜAPU・STに？

01

高橋脩

Shu Takahashi



出身地：埼玉県

学部：サステナビリティ観光学部(ST)

学年：3年生

趣味：読書、音楽鑑賞、サッカー鑑賞

特技：ドラム



- ・「学部が掲げる理念」への共感
- ・地域で「観光」を幅広く学んでから、専門性を選びたかった
- ・国立公園（阿蘇くじゅう）、農山村（安心院など）、温泉地（由布院、黒川温泉など）への関心

+より個人的な話？



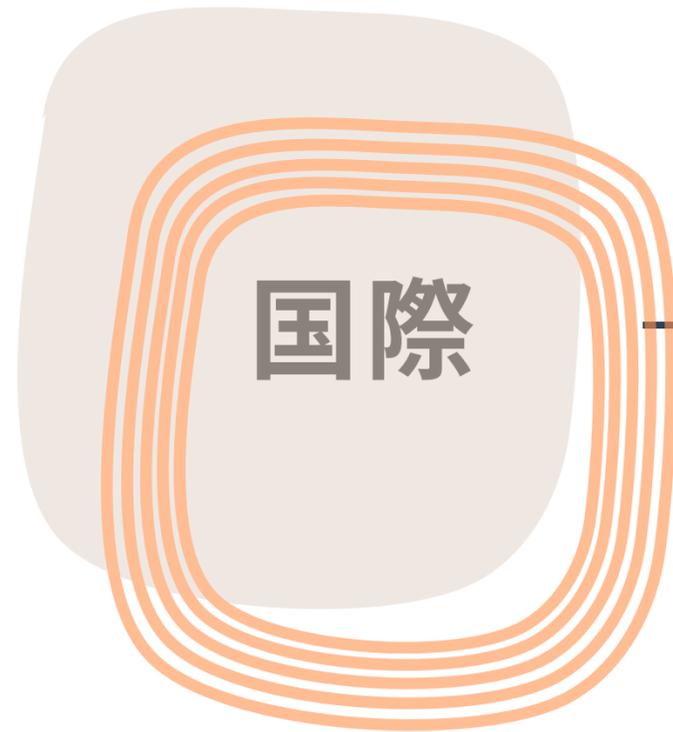
02

+

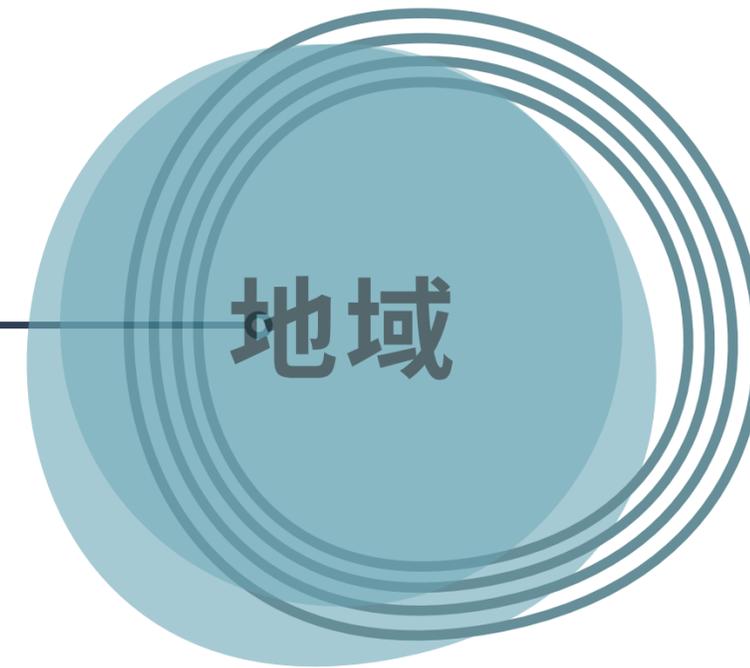
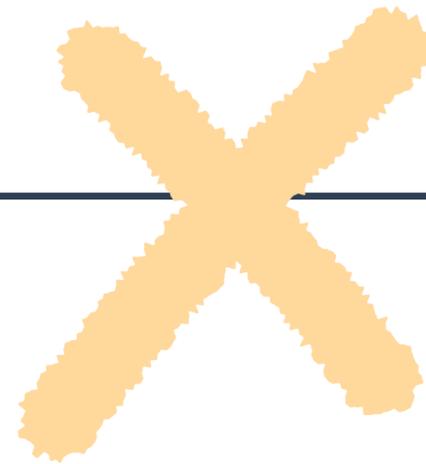
APU / STでの学び

+

実際の気づき / 講義科目 / FS / 専門実習 / 専門演習



**国際生が4割の
観光学部**



**国内有数の観光地にある観光学部
& 地域づくりに関わる機会が多くある**

例) 観光地開発と計画

★授業概要

観光を学ぶ学生を対象として、感動する、美しい観光地を如何に創造できるかを念頭において、観光地の成立条件、発展過程、現在の課題と今後の望ましい姿、観光地を総合的に捉えて講義する。前半（1～7回）では、観光（地）の定義他を説明した後、観光資源に立脚した自然風景地、社寺観光地、町並み観光地、都市観光地、温泉観光地について講義する。後半（8～11回）では、レクリエーション地である海水浴場、スキー場、農村観光地を講義した後、各観光地の集大成とも言える、観光関連諸施設が複合的に整備され、長期の滞在型となるリゾート地について講義する。

（シラバスより）

観光地の分類ごとの特性や歴史を、簡潔に学ぶ

→ どの観光資源やそこでの課題に関心があるか、考えるきっかけに

例) 持続可能な地域づくり 長野県飯田市における調査

参加年度のテーマは「市民と行政の協働によるまちづくり」
公民館活動や住民の自治活動が盛んな飯田市の特徴を、
行政、民間、第三セクターの方々のそれぞれの視点から学ぶ

→自然風土や文化や「暮らしの豊かさ」を地域目線で守る視点であり、
「利便性」と地域の「らしさ」を兼ね備えた「上質なローカル」(飯田市
長談)を、地域コミュニティが主体的に形づくる視点が染み付く

FS(フィールド・スタディ)



例)まち歩き(観光)の先進的取り組み、「長崎さるく」に学ぶ

「まち歩き(観光)」の要諦を、「長崎さるく博」で中心的な役割を担った市民組織の協力の下、実際に体験しながら学ぶのと同時に、学生たち自身の目で長崎市内の主要な観光資源を踏査し、魅力素材を発見する力と、それを伝える力を養う

→ガイド＝「人」を通じた観光の魅力を実感

それまでの観光(資源)への見方ががらりと変わるほどの驚き

02

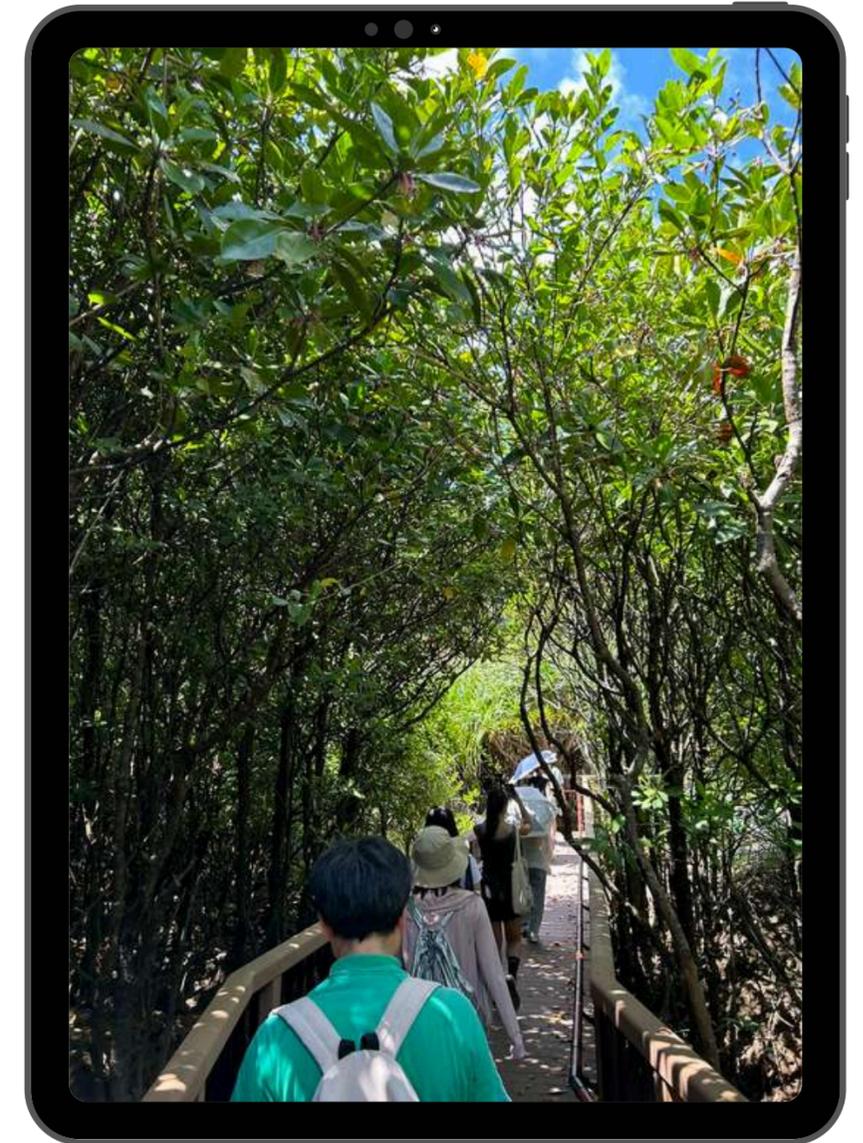
FS(フィールド・スタディ)



例) 沖縄本島北部のやんばる地域の人々の暮らしと地域づくり

那覇をはじめとする南部とは異なる資源や性質を持つ東村が、地域資源を活用して村づくりに成功してきた軌跡をキーパーソンから学び、
また、人々の繋がりとしてのコミュニティが残されてきた生活の様子と、
その近代化の影響による変化を理解する

→ 「地域の人」と「移住者」の関係や、
コミュニティに基づいた観光と大衆観光のバランス、
そこで起きている構造的な変質などを、(観光)社会学的に考察する機会に



例) 別府観光

国際観光都市 / 温泉地である別府を舞台に、地域を見る多様な視点を蓄積し、県や市の基礎知識から、温泉科学や文化的景観に関する議論まで、住民ガイド監修の浜脇や鉄輪の調査を含めて学習する

→観光地に住み、観光地にある観光学部に通う学生として、

特に別府が誇る温泉の性質や管理のあり方、

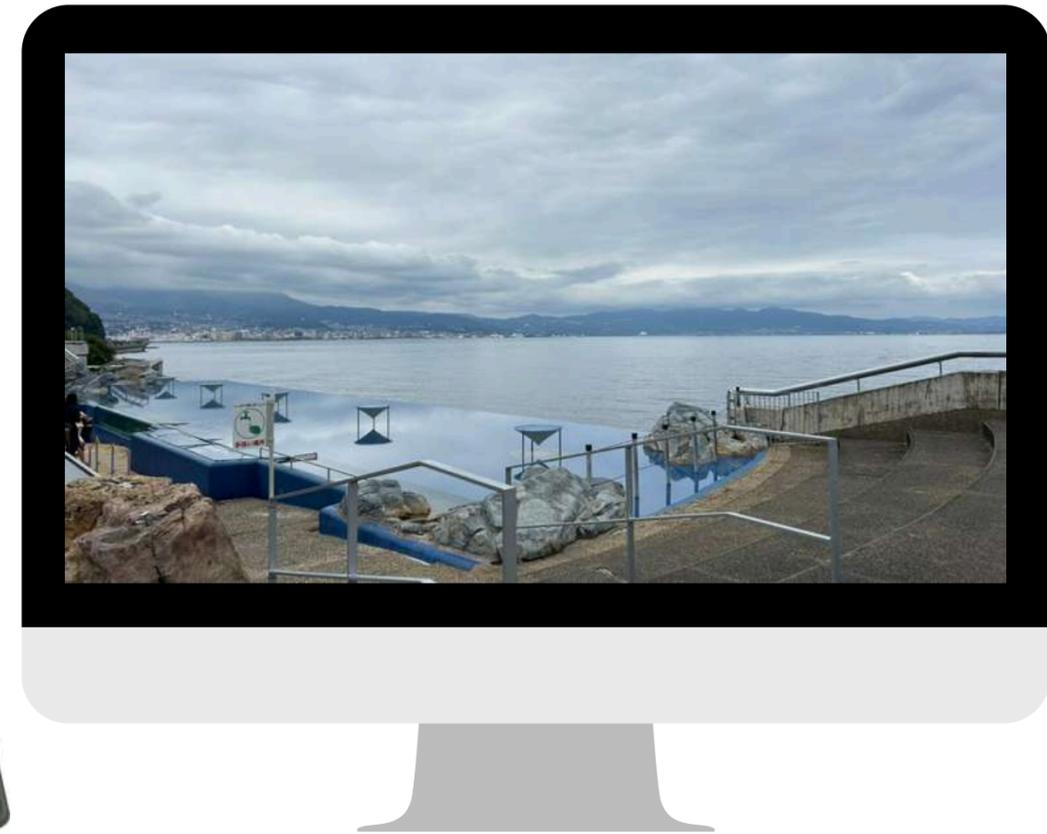
また、現地の観光課題を知り、レンズを変えて「日常」を見る経験



例) ワイルドライフ・ツーリズム

自然観光の一形態であるワイルドライフ・ツーリズム(動物観光)を、大分県内の施設(高崎山、うみたまご)のフィールド調査を通じて理解し、持続可能な観光のための地域に根ざしたアイデアを考案する

→とても近い距離に動物園と水族館がある別府にあって、(環境学と観光学の二つにまたがるSTならではの、)動物観光というニッチな専門性を持つ教授の下で、学術と実践を行き来して、サステイナブルな観光を見つめる



ゼミ活動(ビッグデータとAIの応用など)

ゼミでは、観光領域におけるデータとAIの活用、デジタル化を巡って、
指導教授の論文を読み、国際生と国内学生でともに議論し、
プログラミングの練習をして、
能登でのゼミ合宿と発表に向けたデータ分析などに取り組む

→地域観光の生の情報をもとに、

「データサイエンスと情報システム」(STの専門領域の一つ)の知識を
活かしながら、実践的に手を動かす練習

03



課外活動



in 別府 / in 大分 / in その他

別府市居住支援ネットワーク会議

・別府市における住宅の確保に配慮を要する
方々の安心した生活のための、総合的・包括
的な住まい支援に向けた会議

・専門実習(別府まちづくり)
…「観光はまちづくりの総仕上げ」



(国土交通省 「居住支援協議会の概要」 より)

03

in 大分

安心院プロジェクト



天龍峡を中心とした関係人口



例)天龍峡との活動

長野県飯田市の天龍峡にて、
市役所の移住定住推進課の係長(当時)と、
意気投合した地域づくりの
中心のお方のインタビュー原稿作成



「消費する観光地から共創する故郷へ」を掲げ
た天龍峡のデジタル住民に

04



今後について



「理念」「人」「数字」の学び / 共通する思いから

理念



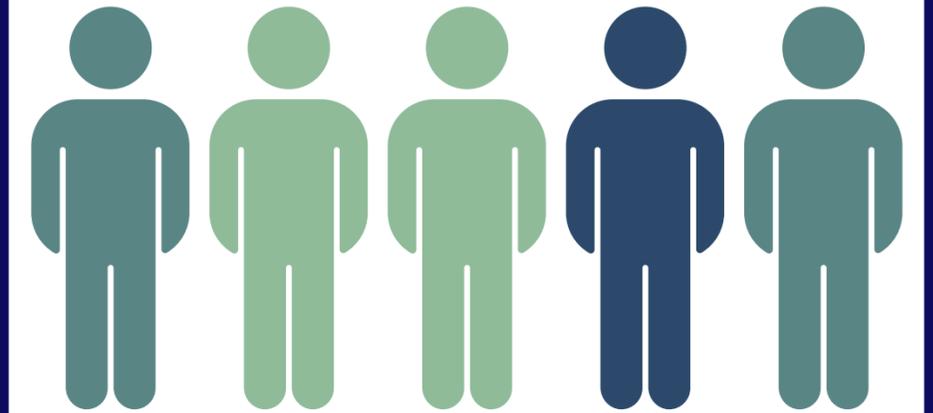
- ・ サステナビリティ×観光
の学問的基盤
→ 地域目線で、「理念」を大切に

人



- ・ 自分の原動力の要
→ 「人」への関心
人情が残る観光の世界

数字



- ・ ゼミでの専門性
→ 「数字」の分析とデータ活用
による観光地マネジメント？

「地域自身が『自走』して
いくための、観光を活かした
循環型社会への転換を、
地域から！」
(例：飯田の方のお話)



出会いをいただいた方々の共通する想い



人口減少、少子高齢化の流れにある地域での
風景、文化、コミュニティの継承

例えば特に、日本ではインバウンドの観光客
が大都市に集中している中、「国際」的な目
線で「地域」観光の可能性を考えることも、
ST卒業生の役割？

先人の方々の「記憶」と「語り」を大切に！

「地域の文化や暮らしを守る
コンセプトの観光は、他
国では主流でも、日本では
まだ大衆受けはしない」
(例：東村の方のお話)



05

+

最後に

+

APU・STにもらったもの



ありがとうございました！
